

DOCTOR SUPPORT PARTY

アンドゥ・トロワ 通信 徳島県医師会

udt Letter



徳島県女性医師等再就業促進運動事業



The 座談会

男女共同参画委員会の活動

働き方改革の一環として「病児保育」をテーマに活動

令和元年度女性医師支援担当者連絡会

地域における女性医師支援懇談会

医学生・研修医等をサポートするための会

医師の働き方改革講演会

平成31年度新人研修医歓迎の集い

Q6【あずかる子ちゃん】また園田先生への質問があればお書きください

○このシステムが本当に充実すれば素晴らしい予約システム。部屋割り、また地域連携ということになると思います。徳島県医師会がもっともっと病児保育が広まり、利用者が増え、子育て支援が十分に提供できる県となればもっと生きた使い方ができると思います。

○導入費用・ランニングコストが高価だとハードルが高いように思います。

Q7 医師会へのご要望など自由にお書きください。

○このような会をご準備いただき本当にありがとうございました。このような予約システムが取り入れられる施設となることを自己研鑽に努めないといけないと痛感しています。病児保育で働く保育士が少なく確保が難しいのが現状ですが質についても向上できたらと思います。

○今回の病児保育座談会に参加して本県では独自でインターネット予約を取り入れるなどすでに施設ごとに工夫がされており特に大きな問題はないのではないかと感じた。今後医師会が病児保育の運営等に関わっていくとなると利用の対象者が一般の方でなく医師が利用する場合にメリットがあるよう検討していくべきだと思います。

The 座談会

令和元年9月3日火 19時

鳴門病院

参加者個々の自己紹介の後、ひなたクリニック武田保育士より病児保育の説明があった。利用の手順、必要な提出書類などの説明を受ける。子供の住民票のあるところの病児保育にしか利用できないということを知る。特に広域利用枠も設けている。続いて鳴門病院 人事課秋田様より「育児のための両立支援ハンドブック」の説明を受ける。鳴門病院が作成した資料で、妊娠・出産時に利用できる制度や育児期に利用できる制度が明確にわかるものであった。

参加者それぞれの経験を語り合い、児童院長からこれから(管理者や上司が)勉強していくかなければならないことお言葉を頂いた。

昨年、そして今年度と日医の各ブロックより一

女性医師の仕事の継続には病児保育の充実が必要」との声が上がっている。鳴門地区の座談会では、お子様連れの女性医師の参加もあり、今後このように地域の現状と課題を聴かせていただき、ご意見を大切にし、女性医師が活躍できる環境づくりができるよう医師会としてもサポートできればと思う。



徳島県立中央病院 第一部

令和元年9月13日(金) 12時5分

○事前に参加者先生方の①お子様の年齢②学童に預けているか③送迎者はだれか④緊急の連絡先⑤病児保育の利用の有無を調べてくださっていた。

○県中には保育所、また病児保育もあり、利用されている先生が多い。

○保育所は年中無休、夜間保育も充実している。日曜などの回診時、短時間だけ見ていたいだけるようなシステムがあれば助かるというご意見があつた。

○病児保育は一日4人まで。土日、祝祭日、年末始は休み、平日、午後5時45分まで希望として、もう少し時間、土日祝祭日など、見ていただける時間が広がればというご意見があつた。又、アプリで予約できればというご意見もあつた。

○どの先生にも共通する意見として

*上司・同僚の理解がある。そして面と向かつては言えないけれど感謝している。

*ご主人が仕事と家庭の両立に協力的である。

病院全体で働き方改革に取り組んでいる姿勢、また科によって医師数も違うが、集まつてくださった若い先生方は、自分が必要といふその期待に沿うようにあらゆる支援を利用し、頑張っておられる。周囲への感謝、また横のつながり、科を超えて情報交換をする体制など学ぶものが多い。

女性医師より、一つだけ無理なお願いがあるとすれば、現在の24時間保育+病児保育に加え24時間病児保育を作つていただけたらありがたいとの要望があり。

これに対して、上司の先生からは、「働き方改革」の考え方からはそのように土日や夜中に病児を抱えながら出勤しなくてもいいようなシステムを構築する努力をするべきとのご意見を頂く。



徳島県立中央病院 第二部

令和元年9月18日(水) 12時5分

武田先生が第一部の内容を詳細にまとめてくださっており、その説明を聞きながら、それぞれの上司にあたる先生方のご意見を伺った。概ね、子供に病気が発生した時には、その都度緊急的に対処は十分にできている。また自分たちは、祖父母や家族の中で対応してきた。今回の座談会(第一部も含めて)からファミサポの制度や、出産前後の法律的な事、また、実際に県中の女医の子育てについて、上司として情報を得た。診療科によつては、医局の段階で忙しい県中に育児中の女医を送らないような忖度もあるかもしれないという意見を出された科もあつた。

●県中の全診療科中女性医師のいる診療科の現状
15／26(57.7%)
全医師中の女性医師数
46／149(30.9%)
女性医師より、一つだけ無理なお願いがあるとすれば、現在の24時間保育+病児保育に加え24時間病児保育を作つていただけたらありがたいとの要望があり。

これに対して、上司の先生からは、「働き方改革」の考え方からはそのように土日や夜中に病児を抱えながら出勤しなくてもいいようなシステムを構築する努力をするべきとのご意見を頂く。

徳島赤十字病院

令和元年11月13日(木) 18時30分
徳島赤十字病院 402会議室

①子育てしている若い世代が多い反面、子育てが終わった世代の女性医師が少なく、ローモデルがない。

②妊娠・出産・育児のための支援制度」というパンフレット作成、子育て中の医師が知らず、もっと活用してほしい。

③各科の部長・先輩・同僚にも制度を理解してもらう必要あり。

④当直免除から復帰時期などに関しては各科の状況が違うため各科の部長と話し合いが必要。

女性医師が休憩をとれる更衣室、授乳室もあり女性医師が働きやすい環境整備もされている。

支援制度利用にあたり、当事者・管理者・事務方との話し合いが必要で、事務局の方も子育て中の医師の支援制度の利用に対して柔軟な対応をされている。忙しい病院にも関わらず、「働きやすい職場づくり」を前向きに取り組んでおられる。



医学生・研修医等をサポートするための会 生きるライフハック

令和元年10月18日(金) 18時30分
徳島大学日赤メディカルホール

医師としてしなやかに
生きるライフハック

～しなやかに～

令和元年10月18日(金) 18時30分

徳島大学日赤メディカルホール

※今後も基幹病院を回るこの座談会事業を継続する予定です。

座談会を通じ女性医師支援、また男女共働きやすい職場になるよう意見交換、情報の共有を進めていきたい。
座談会(文責)岡田博子

象の子の一時預かりをクラッシャーに依頼、その利用料金を一部負担するもの。

座談会では、届託のない様々なご意見をいただいた。徳島は研修医指定病院の立地環境により保育、病児保育の設備が十分とは言えないがそれは決して必要なものでない。まずは県の病児保育事業開業医の先生方による病児保育を子育て世代に広報する。

今後もAWAサポートと



大學病院 LOVE・職場 LOVE・ 徳島 LOVE・家族 LOVE・ ビバ自由!

大學病院 LOVE・職場 LOVE・
徳島 LOVE・家族 LOVE・
ビバ自由!

徳島大学病院感染制御部 特任講師 東桃代

バイタリティー富んだ東先生だからこそできる、仕事も家庭も頑張っている姿に感銘した。自身又ご主人のご両親双方の協力があり、そして、「妻や母親

が食事を作る、家庭のこと

をするという役割固定式ではなく、「やれる人がすばらしい」という考え方があり、また子供にも過干渉しない姿勢・方針を持つおられる。そしてキャリアは遅れてもいい、目の前の課題と毎日向き合う姿勢が大切とお話しされる。

JOY LIFE

徳島県立中央病院 麻酔科 池崎 尚子

子育てと勤務を両立させるに必要なものとして勤務環境の整備そして配偶者・家族の支援などを挙げられる。先生はご主人がよき仕事の理解者である。皆、個々に家庭環境により希望する勤務形態があるが、様々な形で、職にあるとどまりキャリアを継続していくことが医療全体にとって大切なとお話しされる。

「しなやかに！」とは、決して折れない・という立てには自身の努力はもちろんのこと、周囲・家族の協力により成し遂げられること、そして糸余屈折を乗り越えキャリアの継続をすることが、社会・地域に貢献することにつながると若い世代に助言された。参加者48名。

(文責) 岡田博子



医師の働き方改革講演会

令和2年1月24日(金)19時30分～
徳島県医師会館4階ホール

医師の働き方改革

医師の
働き方
改革



若者が集う教室

それぞれに豊かな人生を

徳島大学血液・内分泌内科教授 安倍 正博

地域で必要な内科医を育てる。専門診療を担当しつつ、内科全般を総合的にみる医師が必要。地域全体で一体になり医師を育成し、血液内科・基幹病院・民間病院でシームレスな診療連携を進める。基本、本人のやる気と信念が大事。一度しかない人生なので、自分のことは自分で決める事。お互いがお互いを補い合い、協力するビジョンを持つ。女性医師の入局者も多く、育休取得した男性医師もあり、女性医師の働きやすい環境づくりが男性医師も働きやすい職場につながる。血液・内分泌内科は女性の入局員も多く、TOPの医師の育成に関する信念、姿勢が若い方に共感されていると思われた。

女性外科医の育成と ワークシエア・ワークライフバランス

自治医大付属さいたま医療センター
副センター長 力山 敏樹



医局員の4分の1が女性医師という医局。子育ても手術もこなす医師がいる。男性、女性という以前に外科医が少ない。女性医師を要らないという時代ではない。子育て中の女性医師は手術だけで、緊急対応ができない。そのような周囲の不満に対し周囲がサポートするグループ体制を作る。一人一人の意見を見聞き対応する。部下に調整を任せるのではなく、自ら行う。力山先生ご自身も奥様が7ヶ月も入院することになり、上司にお願いをし、当直免除をしてもらつた経験がある。この経験が現在の医局運営に繋がっており、子育てと仕事の両立は女性医師だけの問題でないと理解を示される。上司の苦労がひびひとと伝わり、管理職者だけでなく若い先生方にも聞いていただきたいと講演だった。コメントーターとして御参加して頂いた日医今村聰副会长からそれぞれの先生方のTOPとしての姿勢に感銘を受けられたこと、また今後女性医師が支えない医学会はなく、これからも日医が女性医師のキャリアを中断することなく、就業を継続するためのサポートをする取り組みを進めただいた。参加者71名。

令和元年度 女性医師支援担当者連絡会

女性医師支援センター 女性医師バンクの取り組み

令和元年12月8日(日)13時～
日本医師会館 大講堂

【1】日本医師会女性医師支援センター長 今村

聰先生より「女性医師支援センター女性医師バンクの取り組み」についての説明

①新規求職登録者はこの2年間で約6倍・本登録数301就業成立も74から204件となる。都道府県医師会との連携はうまく機能していかなかった。

必要性はあるも、運営方法、費用の問題で開設できない都道府県もあった。担当役員を各県設置後7割の都道府県医師会が協力可能となる。

②今後の課題の中に、シニア医師や医業承継、産業医などへ斡旋事業への展開をあげられた。

【2】病児・病後児保育および学童保育に対する支援の現状について平川敏夫日本医師会理事より説明。支援新制度として市町村主体のもの、国主体のものをあげられる。内閣府への要望も挙げられたものの徳島のような地方都市に当てはまるものではないと感じた。

【3】女性支援に関するアンケート調査の結果を上家和子女性医師支援センター参与より説明。管理職にはまだまだ女性医師は少ないという結果であった。

【4】日本医学会連合男女共同参画など検討委員会名越澄子委員長より男女共同参画など多様な背景を持つ会員の学術活動への参画と今後の支援方策に関する調査報告があった。

【5】各団体の取り組みから①大分大学②帝京大学③日本腎臓学会④日本核医学会⑤神奈川県医師会⑥山口県医師会が発表される⑤の神奈川県医川崎市は地域医療介護総合確保基金を活用した病児病後保育を実施、運営委託先は川崎市医師会

⑥山口県は医師会が保育サポート養成・平成2年からの事業だが現在はサポート体制の見直しを模索している。サポートの高齢化、複数サポートでのチーム編成など、また医師会員の利用が少ないことなど。最後に自見はな子参議院

した印象が強かったのか、そこから総括の話をしてくださり、「育休の取得ができる環境整備がないと女性医師自ら思うことができる環境整備が必要」「学会参加費などの補助も検討」「病院全体でのマネージメントが必要」と述べられた。

平成31年度 新人研修医歓迎の集いを開催

平成31年4月20日(土)15時～
徳島県医師会館4階

平成31年4月20日(土)15時～
徳島県医師会館4階

徳島にて初期研修を受ける研修医の先生方を歓迎して、徳島県医師会主催で「新人研修医歓迎の集い」を開催しました。斎藤義郎会長のご挨拶の後、勤務医・研修医委員会 八木淑之委員長に医師会活動及び医師資格証・MEDPostについて紹介いただきました。続いて、廣瀬千壽子同委員からは、勤務医がなぜ医師会に入会したのかをテーマに、医師年金加入のメリット等についてご説明いただき、今井義禮副会長からは保険診療についてわかりやすくご講演頂きました。

また、徳島県立中央病院 外科・救急科 松下健太先生より「WorkもLifeも輝ける私たちの働き方改革」と題して、医師3年目に外科後期研修をスタートし、医師8年目に第3子の時に育児休暇を取得されたこと、よき上司・よき同僚あってのよき職場であること、「Life充実には時間が必要であると感じたとのことなど、少しずつでも夢に近づくことが出来るのでWork充実のために課題として時間の確保とMy goalを意識しておくことが重要とのお話をいただきました。

後半は、「先輩から伝えたいメッセージ」として、研修医2年目の先生・指導医の先生方からご自身の経験を中心のご発言いただき、研修医の先生方の明日からの診療に役立つお話をたくさん聞ける機会となりました。終了後は、参加者全員で記念写真を撮影し、徳島県知事にもご参加いただいた懇親会も行い、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

令和2年度新人研修医歓迎の集い
4月18日(土)15時より

員より総括があつた。徳島でのフォーラムに参加

